

# 核戦争防止 兵庫医師の声

第94号 2015年度9月号

発行 核戦争を防止する

兵庫県医師の会

〒650-0024

神戸市中央区海岸通1-2-31

神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会内

電話 078(393)1807

振替 01130-6-57830

反核医師の会総会を開催

## 国民の間に歴史の共通認識を築いていこう



中沢けい氏(左上)、泥憲和氏(左下)の対談企画に市民ら94人が参加

核戦争を防止する兵庫県医師の会(反核医師の会)は、8月2日に協会会議室で第34回総会を開催した。記念企画では、作家で法政大学教授の中沢けい氏と、元自衛官の泥憲和氏が、「日本の平和、人権、言論を考える」と題して、対談を行った。会員・市民ら94人が参加した。

対談に先立ち、まず両氏がそれぞれ講演を行った。泥憲和氏は、元自衛官としての視点から、安倍政権が推し進める安保法制に反対すると主張した。泥氏は、法案で自衛隊が守ると記されているのは、米艦船に乗っている民間人ではなく、アメリカの武器や艦船と明記されていることを示した。また民間人の保護は現在でも自衛隊法82条により可能とし、集団的自衛権で、安倍首相が守るべきと考えていることは、日本国民ではなく、米艦船であることが明らかであり、首相の説明は国民を欺いていると批判し

た。

一方、中沢けい氏は、自身がヘイトスピーチに反対するなどの運動に取り組むようになったきっかけについて語った。中沢氏は、大阪での外国人参政権に反対するデモや右翼によるヘイトスピーチが起こる問題の根底に、日本の近現代史と先の大戦について国民の中で共通認識が作られていないために、齟齬や誤解、混乱が生じていることがあるとして、現代の日本国がどのように成立したのかを、改めて広

2面へつづく



コーディネーターの宮武運営委員

い世代で確認することが、重要だと語った。

対談で泥氏は、ジブチなどの外国に派遣されている自衛隊について、海外に派遣された自衛隊員のうち、PTSD（心的外傷後ストレス障害）を発症するなどした隊員へのケ

アが不足していると、政府の不十分な対応を批判した。

中沢氏からは、安倍首相の主張の背後には、集団的自衛権が合憲であるとしている憲法学者らでつくる団体「日本会議」のコアメンバーの存在があるとの指摘があった。また、内閣で集団的自衛権の行使を容認する場合にも、国民間の議論を出発点にして憲法を改正するのが当然だと語った。

総会議事では、代表に郷地秀夫先生が、運営委員長に近重民雄先生がそれぞれ再任した。議論では、原子力発電も原子力災害を引き起こしうるばかりか、核保有への道を開くものであり、原発再稼働に反対していくなどの活動方針が確認された。

## 核戦争を防止する兵庫県医師の会 第34回総会

### 2014年度活動報告と2015年度活動方針

(1) 本会は、設立総会開催（1982年7月）から33年を迎えました。

設立以来、非核・反核の情報交流につとめてきました。諸活動としては、会報「医師の声」の発行、反核パネルや反核リーフレットの製作・普及、反核平和映画の製作協力や貸し出し、被爆者の会への援助、各地の医師の会との交流、IPPNW（核戦争防止国際医師会議）の世界大会と地域会議への代表派遣、県内の反核平和団体との協力などを行ってきました。また、本会独自の反核展の開催などを通じ、核兵器廃絶を願う草の根の団体として患者・県民に医師の立場からの働きかけを行うなど、継続して活動してきました。結成当時198人であった会員数は、86年には500人を超えましたが、高齢・病気等による会員の退会などで、現在234人となっています。

(2) 2014年度の活動

①第33回総会では記念企画として「アーサー・ビナードが語るピカドンが教えてくれたこと」をテーマに、詩人アーサー・ビナード氏による講演を開催、175人が参加しました。

②NPT再検討会議（4/25-5/1）に坂口智計先生が代表として参加しました。

③2014年原水爆禁止世界大会に4人、平和行進にも4人が参加するなど、県下の様々な平和運動との協力・共同を行いました。

④「日本医学会総会2015関西」にあわせて開催された「医の倫理—過去・現在・未来—」実行委員会に参加、協力しました。

⑤「第25回核戦争に反対し核兵器廃絶を求める医師・医学者のつどい in 福岡」には、4

2面からつづく

人が参加しました。

⑥保団連の沖縄基地視察会に3人が参加しました。保団連非核・平和部会、全国反核医師の会常任世話人会に役員派遣し、協力しました。

⑦原爆症認定集団訴訟では、引き続き事務所・連絡先を引き受けるなど、支援ネットワークに協力し積極的役割を果たしました。郷地秀夫代表が各地で講演活動を行いました。

⑧米国の未臨界核実験、ロシアのプーチン大統領の核攻撃準備発言、安倍首相の「我が軍」発言に対し、抗議声明を發表しました。

⑨非核「神戸」方式40周年記念集会(2015年3月18日)に参加・協力しました。

⑩非核の政府を求める兵庫の会にも引き続き協力し、市民学習会「辛淑玉さんとともに考えよう 平和と人権—レイシズム問題を中心に」(辛淑玉 人材育成技術研究所、のりこえネット共同代表)、南京事件を考える集い『ジョン・ラーベ～南京のシンドラー～』映画上映会、市民学習会「4年目の『福島の実態』脱原発と核兵器廃絶の願いとともに」(野口邦和

日本大学准教授)、市民学習会「亡国の安保政策—安倍政権と『積極的平和主義』の罟」(柳澤協二 元内閣官房副長官補)を行いました。また、総会では、総会記念講演「2015年を核兵器廃絶の年に」(川崎哲 核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)国際運営委員)に協力しました。郷地代表、小泉運営委員が、常任世話人を務めています。

⑪九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みました。

⑫「集団的自衛権に反対し、平和憲法を守る」署名に取り組みました。

2015年5月、世界190の国々が参加する核不拡散条約(NPT)のもとで5年に一度開催される「NPT再検討会議」は、「核兵器のない世界」を達成するため「必要な枠組みを確立」する努力を確認した2010年会議の合意を前進させるかどうかが焦点でしたが、最終文書を採択できずに閉幕しました。

今回の会議では、非同盟諸国を中心に、核兵器の非人道性を告発し、その使用禁止と廃絶を訴える声明が159カ国の賛同で発表されました。また、オーストリア政府が主導した、核兵器を禁止する法的措置を求める「人道の誓い」への賛同は107カ国にまで広がるなど、世界の圧倒的多数の声が核兵器の全面禁止への大きな流れが生まれるなど、核廃絶への道を切り開く流れは、前回会議よりも大きく発展しました。最終文書が採択されなかったのは、中東の非核地帯化をめざす会議の開催に、イスラエルと米英といった核保有国の反対があったためであり、非核保有国の声に背を向けた態度に批判が強まっています。しかし日本政府は、アメリカの核の傘に依存した安全保障政策を採っており、核廃絶を求める大きな流れに逆行しています。日本を核兵器全面禁止のイニシアチブをとる国へと転換させるためいっそう活動を強めましょう。

いま安倍政権は、集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、自衛隊を海外に派兵して米国とともに武力行使ができる安保法制の審議をすすめています。また安倍首相は、国会で自衛隊を「我が軍」と発言し、広島・長崎での平和祈念式典の発言で「コピペ」を行うなど、自衛隊は軍隊ではないという歴代政権の解釈を変更し、核兵器のない平和な世界を望む被爆者の方の思いをないがしろにしています。

### (3) 情勢

また、戦後70年の「安倍談話」に、先の大戦への反省と周辺諸国へのお詫びは不要との考えを示し、戦後日本の不戦の誓いをも無視する姿勢を示しています。辺野古への米軍新基地建設でも、沖縄県民の総意を無視して強行する姿勢を崩していません。福島第一原子力発電所事故に端を発する脱原発の世論の盛り上がりにも背を向け、川内原発の再稼働を認めるなどの暴走をいっそう強めています。

平和を願う国民の思いを無視し、民主主義をないがしろにする安倍政権に対抗して、核兵器の全面禁止や自衛隊の戦地への派兵の反対、沖縄に連帯した新基地建設の反対へむけて、運動をいっそう強めましょう。

#### (4)2015年度の重点課題

- ①交戦国の核攻撃を受けた唯一の被爆国の医師として、また、人命を守る医師の社会的責務を自覚し、医師らしい創意ある活動を進めます。
- ②被爆者との交流と援助活動を進めます。特に被爆者医療の取り組みを重視し、原爆症認定被爆者集団訴訟を支援します。
- ③核実験に反対し、核兵器廃絶を求める国際的世論と共同し、運動していきます。
- ④原子力発電は、万一の事故時の周辺住民への著しい健康被害や、発電により生み出され

る放射性廃棄物の処理の問題、さらには核保有に道を開くものであり、原子力発電所の建設、再稼働、輸出に反対する運動に取り組みます。

⑤講演会の開催など、医師として運動を社会的にアピールする取り組みを進めます。特に医療関係者と次世代への「語り継ぎ」を課題に、医学生などへの働きかけや市民向けの企画も随時開催していきます。

⑥2015年に愛知で開催される「第26回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 愛知」に参加します。

⑦保団連が開催する基地視察会(8月30日横須賀基地・厚木基地)に参加します。

⑧2015原水爆禁止世界大会、国民平和大行進への参加を呼びかけます。

⑨非核の政府を求める会・非核神戸方式記念集会実行委員会など県下の反核諸団体との交流・協力を一層強め、これらの団体の取り組みの成功にも協力します。

⑩九条の会兵庫県医師の会と協力し、平和憲法を守る運動に積極的に取り組みます。

⑪会報「医師の声」の定期発行と、学習・講師派遣活動、反核DVDや原爆パネルの貸し出しなどを積極的に進めます。

⑫会員を増やすため引き続き加入を呼びかけます。

### ■核戦争を防止する兵庫県医師の会運営委員

代 表	郷地 秀夫	委 員	加藤 擁一	委 員	西山 裕康
運営委員長	近重 民雄	〃	川西 敏雄	〃	森 達哉
委 員	池内 春樹	〃	幸原 久	〃	柳井 映二
〃	池本 恒彦	〃	武村 義人	〃	足立 了平
〃	井村 春樹	〃	田中 孝明	〃	松岡 泰夫
〃	内田 敬止	〃	宮崎 義彦	〃	宮武 博明
〃	小泉 勇				

## ■創立以来の会員数

1982年7月	198人
1983年7月	363人
1984年7月	385人
1985年7月	408人
1986年7月	506人
1987年7月	507人
1988年7月	538人
1989年7月	543人
1990年7月	535人
1991年7月	519人
1992年7月	504人
1993年7月	489人
1994年7月	459人
1995年7月	446人
1996年7月	422人
1997年7月	419人
1998年7月	412人

1999年7月	404人
2000年7月	390人
2001年7月	380人
2002年7月	369人
2003年7月	363人
2004年7月	350人
2005年7月	333人
2006年7月	303人
2007年7月	291人
2008年7月	264人
2009年7月	253人
2010年7月	265人
2011年7月	257人
2012年7月	255人
2013年7月	246人
2014年7月	243人
2015年7月	234人

## 2014年度会計報告

収入の部		支出の部	
会費	260,000	ニュース印刷・発行	67,966
		総会	71,580
		手数料	4,572
		渉外	25,000
		雑費	23,327
繰越金	124,819	繰越金	284,587
合計	¥384,819	合計	¥384,819

〈反核医師の会の新年度会費納入をお願いします〉

反核医師の会は総会を開催しました。決定した新年度の方針に基づき、活発に活動してまいりますので、会員の皆様は新年度会費納入をお願いいたします。

(今号に振り込み用紙を同封しております)

## 原水爆禁止 2015 年世界大会

# 被爆 70 年に核廃絶誓う



世界大会の会場前で寄せられた折り鶴を手にして記念撮影  
左から坂口、川西、加藤、武村、白岩各先生

被爆 70 年を迎えた今年、原水爆禁止 2015 世界大会が、8 月 4 日から 9 日にかけて広島市内・長崎市内で開催された。7 日から 9 日の長崎会場には、協会の武村義人・加藤擁一・川西敏雄各運営委員、白岩一心、坂口智計両先生、櫻林歯科（明石市）の職員 2 人が参加し、武村義人運営委員、広川恵一先生、落合愛子先生からの折り鶴を平和公園に供えた。参加した白岩先生の参加記を掲載する。

## 立憲主義を裏付ける憲法裁判所

赤穂郡 白岩一心

初日の兵庫県団結団式においては、兵庫県保険医協会が、核兵器廃絶、安全保障関連法案廃案、国民皆保険制度死守をめざしていることをアピールさせていただきました。

2 日目、世界大会にふさわしい分科会が行われ、私は「憲法をいかす、非核平和の日本を」に出席し、ドイツ代表の先生に「憲法裁判所」について質問をしました。

日本ならば憲法違反の閣議決定を総理大臣がしても、なかなか法的に裁かれることがありません。ドイツでは、三権分立プラス独立した憲法裁判所の存在が立憲主義を強めているという回答をいただき、印象的でした。夕方から全国からの保険医協会代表との会議。全国の先生方が出席してくださり、有意義な会議と交流となりました。

3 日目の 8 月 9 日は、長崎原爆投下の日。長崎の

鐘の音が街中に響き渡る中、世界大会閉会総会に出席しました。原爆投下時刻である午前 11 時 2 分に、参加者全員で黙祷を捧げました。世界大会のフィナーレは感動的でした。

現地・長崎市に行かないと分からないことがたくさんありました。長崎医科大学医学部生と薬学部学生の亡くなった方々が 900 名近くいたことは、なかなか報道されないので、現地で知りました。平和公園の祈念像、長崎の鐘、浦上天守堂も悲しみ深く心に刻まれています。

元歯科部会長の落合愛子先生、広川恵一先生からお預かりした折り鶴を持っていた時に感じた平和への思いの重みを忘れることはできません。

ホストである長崎協会の皆さまにもお世話になりました。被爆地・長崎への祈りの思いが深くなりました。幼い頃からの長崎への追悼の夢が叶いました。来年も核兵器廃絶を訴えるため、長崎協会の皆さまに再会するためにも、参加したいと思っています。

## 原水爆禁止 国民平和大行進

### “核をなくそう” 歩いてアピール



参加した武村運営委員（左写真中央）、松岡運営委員（中写真右）、櫻林運営委員（右写真右から二人目）と歯科医院スタッフ

戦後・被爆 70 年を核兵器のない世界への転機としようとして、8月4～9日に広島・長崎で開催される「原水爆禁止世界大会」をめざし、日本全国の市町村を結んで、核兵器廃絶をアピールして歩き続ける「国民平和大行進」に、協会から武村義人、小泉勇、松岡泰夫各運営委員、櫻林義雄先生が参加した。

小泉運営委員は8日の伊丹市役所前で激励あいさつに立ち、10日には、武村運営委員が中央区を、松岡運営委員が兵庫区から長田区までを、11日には櫻林先生がスタッフと共に明石市内を行進した。平和行進は、8月4日に広島、6日に長崎に到着予定。原水爆禁止世界大会にも協会役員が参加を予定している。小泉運営委員のあいさつの内容を紹介する。

### 「戦争法案」を廃案に

小泉勇 運営委員

今年も年に一夜「七夕さん」のように、元気な皆さんとお会いできました。私も、核廃絶の見通しがつくまで死ねません。

人道的立場から世界の大多数の国が、核保有国に対して、核廃絶条約を求める交渉に参加するよう求めるようになってきたのは、被爆者の努力とそれを支えて70年間、原水爆禁止日本協議会等で活動してきた国民の協力があつたからでしたが、唯一の被



伊丹市役所前で挨拶する  
小泉運営委員

爆国日本の政府は、米国の核の傘で守られる遠慮から、一貫して消極的でした。さもなければ、核兵器廃絶条約は成立していたでしょう。

加えて、今年は安倍政権が、米国が世界中で行う戦争を一緒になって戦う憲法違反の集団的自衛権の行使容認の安保法制を、国民に認めさせようとしています。まず皆で力をあわせて、この企みを打ち壊しましょう。

2015年NPT再検討会議NYで開催

# 核兵器の非人道性が焦点に

坂口先生が兵庫県代表団として参加



NPT再検討会議での医療・福祉関係者のつどいにて医師も核廃絶訴え

兵庫県保険医協会は、4月から5月にかけて開かれた核不拡散条約（NPT）再検討会議に合わせて、会場のニューヨークを訪問した兵庫原水協代表団に坂口智計評議員を派遣した。NPT再検討会議は、5年に一度ニューヨークで開催され、会議期間中には市民団体やNGOのさまざまな取り組みが並行して行われる。今回の会議では、最終文書は採択されなかったが、核兵器の非人道性に基づく核廃絶の議論がされるなど、発展した議論がなされた。坂口先生の報告を掲載する。

日本原水協代表団主催のNPT（核不拡散条約）・ニューヨーク行動に、4月26日～30日の短期間でしたが参加しました。

26日に開催された「PEACE & PLANET 国際共同行動のパレード」には、主催者発表で1万人が参加されたそうです。しかし、私はそのパレードの終わったところに、ようやくNYにたどり着き、地下鉄を乗り継いで宿のあるセントラルパーク近くをグーグルマップを頼りに徒歩で移動中でした。

同日、国連本部近くのハマーショルド広場で、山積みされた「核兵器全面禁止のアピール」署名を、第9回NPT再検討会議のタウス・フェルーキ議長とアンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表に提出し、代表団最大の目的を果たしました。その数633万6205人分にもなります。

署名目録を受け取ったケイン上級代表は「署名を届けてくれたことに感謝する。とても心強いです。核軍縮は正しいことです。そして、可能なことなの

です」と、フェルーキ議長は、「正しい目的に向かって正しいやり方で活動している。核軍縮は政府だけですることではありません。市民一人ひとりの行動があつてこそ実現できます。署名は自分自身の意志を表明することができるものです」と、私たちの努力を高く評価しました。

その翌日以降も現地で、日中はセントラルパークで、現地に在住している方に片言の英語を駆使して署名活動を行ったり、各種の集会に参加したり、夜は他府県の労働組合の方たちや医療関係者の方たちと会食をしたり、それでも話し足りない時はそのまま部屋でさまざまな議論をしました。

4月28日には医療関係者の集いが行われ、オバマ大統領の肝いりで行われているオバマケアについても詳しく聞けました。オバマケアは、補助金により低所得者にも健康保険に加入させる制度ですが、民間保険への加入を義務付けるもので、日本の国民皆保険制度とはかけ離れていると分かりました。

## 安保法案は廃案に 全国各地で行動 国会前でも兵庫でも医師・歯科医師が多数参加



(上) 神戸市中央区東遊園地での集会で安保法案廃案を訴える写真左から小出先生、辻先生、山中先生  
(左) 12万人が集まった国会前デモで安保法案廃案を訴える八木先生(左)と福田先生(右)

違憲の法案は必ず廃案に——。参議院で審議されていた安全保障関連法案の廃案を求め、8月29日・30日に全国各地で集会が行われ数十万人が集まった。協会からも県内および東京・国会周辺の集会に会員とスタッフ・家族が多数参加し、「違憲の法案絶対反対」「安倍政権は今すぐ退陣」などと声を上げた。

29日には、兵庫県弁護士会の主催で、『安保法制関連法案』&『特定秘密保護法』反対兵庫パレードが神戸・尼崎・姫路・豊岡の県下4カ所で開催され、市民6000人超が集まった。神戸会場には、松岡泰夫運営委員、辻一城、山中忍、住友直幹、松岡泰夫、藤末衛、小出昌伸、富永弘久の各先生が、尼崎会場に宮崎義彦、脇野耕一両先生、尼崎市の野村医院スタッフらが参加し、「イケン」のプラカードを掲げて街をパレードし、市民にアピールした。

30日には、東京の国会周辺で「戦争法案廃案！安倍政権退陣！8・30国会10万人大行動」が行われ、全国各地から集まった12万人が国会を包囲。

兵庫協会からは、武村義人・川西敏雄両運営委員、八木秀満、福田俊明、白岩一心、坂口智計各先生が参加し、「戦争法案絶対反対！」と声を上げた。主催は、市民らでつくる「戦争させない・9条壊すな！

総がかり行動実行委員会」で、保団連も会員に参加を呼びかけていた。

国会正門前では、野党各党の党首や音楽家の坂本龍一氏、憲法学者や大学生でつくる「SEALDs」のメンバーなどが次々にマイクを握り、集団的自衛権の行使容認する法案の違憲性や海外での戦争に参加する危険性などを訴えた。

非核の政府を求める兵庫の会市民学習会

## 抑止力依存の安倍政権の外交を批判

元内閣官房副長官補の柳澤氏が講演

非核の政府を求める兵庫の会は、6月19日に柳澤協二元内閣官房副長官補と元自衛官の泥憲和氏を招いて、兵庫県保険医協会会議室にて「亡国の安保政策 安倍政権と『積極的平和主義』の罨」と題して講演会を開催した。市民ら130人以上が参加した。参加した川西運営委員の感想文を掲載する。



(右上) 講演した柳澤協二氏

(左) 130人以上が参加して会場はいっぱい

### 安倍政権の戦争法案 —衆愚政治とは

北区 川西 敏雄

去る6月19日、協会会議室で開催された「亡国の安保政策 安倍政権と『積極的平和主義』の罨」に参加した。報道を威嚇し、ポツダム宣言を読まずに戦後レジームからの脱却を語るような政権に対し、最後の砦が日本国憲法であり、また現政権に憲法を語る資格がないと改めて確信できた講演会だった。

柳澤協二氏は東京大学法学部を卒業後、防衛庁に入庁された。自衛隊がイラクへ派遣されていた2004年に、内閣官房副長官補に就任し、2009年に退官した。一方の泥憲和氏は、防空ミサイル部隊に所属していた元自衛官である。

このお二人がおっしゃるには、日本の将来を鑑みたときに、安倍政権の安保法案は到底容認できる法案ではないとのことだった。

対談で柳澤氏は、抑止力とは、力の勝るものが同等以下の相手に対して行う示威行為だとされた。抑止力を使うに当たっては、将来にわたる隣国との平和のためにも国家同士の対話も促進しなければならないとのことであった。しかし安倍政権はこの平和の道と真逆の政策を目指している。中韓と対話はせ

ずに、国民に対してナショナリズムを煽り、第二次世界大戦後のポツダム宣言に基づく国際体制、「戦後レジーム」からの脱却を目指そうとしていると批判していた。

一方の泥氏は、元自衛官という御自身の経験から安保法制を語られた。自衛隊は「服務の宣誓」をしているので、血の同盟に基づく命令があればそれに従うことは間違いないが、それでは先の戦争とまったく同じ道を歩むこととなると指摘していた。「大本営」は安全な場所で指示を出すだけで、現場の自衛官が外国の地で危険にさらされる。元自衛官の泥氏には到底許されないことだろう。集団的自衛権などなくても国を守ることはできる、今こそ専守防衛を目指す時ではないかと主張していた。

対談を通して、二人はそろって世論の大切さを強調していた。安保法制が憲法に反すると訴えるだけではだめで、子どもたちのために、今一度戦争をしない国という日本ブランドの維持と、紛争の早期収拾を目指すことの大切さを市民へ訴えることが大切とのことだ。

“衆愚政治とは判断力の乏しい人間に参政権が与えられている状況。それゆえにおろかな政策が実行される状況”とある。今の日本はそうなっていないだろうか。

平成27年9月19日安保関連法案成立

非核の会が原発問題学習会を開催

## 原発再稼働の是非と安全性について激論

原発推進派と反対派双方の科学者が討論



会場からの質問に答える各講演者 右から、児玉一八氏、澤田哲生氏、館野淳氏、本島勲氏

非核の政府を求める兵庫の会主催の市民学習会「徹底討論！ どうする原発、日本のエネルギー 原発『賛成』『反対』の論客が、真摯に語り合う」が9月5日に兵庫県保険医協会会議室で開催された。この講演会は、安全で安定的なエネルギー政策についての国民的な合意形成を図るために、原発推進派と反対派との間で共通の課題として討論し、市民の関心を高める目的で開催された。原発推進の立場からはTV討論会に多く出演している東京工業大学の澤田哲生氏。原発反対の立場からは原発の技術的問題に詳しい館野淳氏と、エネルギー問題に詳しい本島勲氏が出席。コーディネーターは原発問題の住民運動に携わっている児玉一八氏が務めた。

館野氏は、原発の歴史的問題と技術的問題について講演。「福島事故」はスリーマイル、チェルノブイリに続く商用炉における3番目の「シビアアクシデント」（設計基準事故を超える事故）、初の複数号機の同時進行事故である上、地震という自然災害との複合事故、外部要因事故、共通要因事故でもあり、予防や収束の極端な困難さがあるとした。そして重大な「教訓」として原子力技術の現時点での実像・実態が示され、「専門家」の信頼性失墜、倫理的責任だけでなく、原子力技術をどうみきわめるか、科学者・技術者の科学的責任が問われているとした。

本島氏は、エネルギー問題・再生可能エネルギーについて講演。自然エネルギーの開発は、地域固有のエネルギー・財産を、地方自治体と住民と協働し、住民自らの手と資金（基金）により開発することが重要であり、住民自らの手による新しいエネルギー政策、電力システムへの具体的な転換が必要とした。そして、大規模工場を中心とした大量生産・大量消費、エネルギーの大量消費から、自然と共生する農林漁業、地場産業、低エネルギー循環型・内需主体の産業構造、生活への転換が求められているとした。

原発推進派の澤田氏は、本島さんと館野さんの講

演内容を踏まえて講演。軽水炉発電は熱バランスで事故が起きるので、高速炉こそが理想的だが、初期の軽水炉から故障や事故を経験し、そこから学び良くなってきているとした。そして、福島第一原発の事故からも学ぶ点があり、今後の原発稼働への教訓となるとした。

また、40年から60年で廃炉になる一つの原発がシビアアクシデントを起こすのは、1000年に1回にすぎないが、それでも外付け・後付けのシビアアクシデント対策として、川内原発では格納容器を秒速100メートル竜巻にも対応できる金属製の網（鳥かご）で覆っていることを始め、移動式ポンプ車、移動式電源車など複数台場所を分けて置いているなど、事業者は数千億円の対策をしていることを紹介した。

討論と参加者との質疑応答では、科学者の責任、テロ対策、避難訓練、最終廃棄物処理、国民投票など多岐にわたった。講演者の間には再稼働の是非・安全性、最終廃棄物処理などで見解の相違はあったものの、理性的で専門的な議論となった。コーディネーターの児玉氏は、「今回は初めての試みの討論会なので、引き続き開催したい」とまとめた。

九条の会・兵庫県医師の会が講演会開催

# 自衛隊の国際貢献は非武装での交渉こそ

東京外国語大学教授 伊勢崎賢治氏が語る



国際平和貢献のために自衛隊が発揮する役割について語る  
伊勢崎氏（右）の講演に医師・歯科医師・市民ら 162 人（左）が聞き入った

九条の会・兵庫県医師の会は、9月6日に兵庫県保険医協会会議室で、東京外国語大学教授の伊勢崎賢治氏を講師に市民学習会「武装解除のプロ、伊勢崎賢治が語る 日本人と戦争のこれから」を開催した。医師・歯科医師・市民ら 162 人が参加した。

国連職員としてシエラレオネなどで武装解除を指揮した経験をもつ伊勢崎氏は、安倍政権が憲法違反の安全保障関連法案の審議を強引に進めていることを、大学生らでつくる SEALDs(シールドズ)の運動の盛り上がりなどをあげて批判。集团的自衛権が容認されれば憲法9条の意味がなくなるとし、アフガニスタン特措法、イラク特措法、ソマリア沖派遣、ジブチへの自衛隊基地設置と地位協定締結など、違憲の海外派兵の実態を解説した。

また、自衛隊の海外派遣を正当化する「後方支援」「国準」「一体化」といった用語は、国際社会では通用しない日本政府独自の詭弁であるとし、伊勢崎氏が出演した報道映像を用いて、国連が現在コンゴ民主共和国で行っている平和維持活動について紹介。国連の活動はこれまで「停戦監視」など中立を保ってきたが、90年代のルワンダ大虐殺に国連PKOが

無力であったことを契機に、2011年のリビア内戦以降、「住民の保護」を任務に国連が当事者として戦闘に参加するようになり、南スーダンのPKOへの自衛隊派遣では、停戦合意が崩れても自衛隊は帰国せず「PKO五原則」が形骸化しているとした。

国連PKOの役割が変質する中で、憲法9条を持つ日本が果たすべき役割は、PKOに参加しての武力行使ではなく、非武装で紛争の最前線に立ち、武装勢力との武装解除の交渉にあたるのが最適であり、「自衛隊の根本的な法的地位を国民的に問うことなしに自衛隊を海外に送ってはならない」とし、安保法案がたとえ可決されたとしても、これを発動させない違憲訴訟などの運動、野党の選挙協力が必要だとした。宮武博明九条の会・兵庫県医師の会世話人が司会を務め、西山裕康運営委員が謝辞を述べた。

保団連神奈川基地視察会

## 原発より危険な原子力空母の実態を学習

兵庫県からも4人の医師・歯科医師が参加

8月30日、保団連非核平和部は平和視察会を開催し、神奈川県にある、横須賀基地と厚木基地を視察した。保団連非核平和部、反核医師の会役員など41人が参加した。兵庫県からは、武村義人、川西敏雄両運営委員と坂口智計、白岩一心両先生が参加した。



厚木基地を背景に記念撮影 視察会参加は41人

視察開始の前に、神奈川県下の基地学習会を開き、神奈川県平和委員会の蒲谷俊郎氏が、横須賀基地、厚木基地についての解説を行った。蒲谷氏は神奈川県は、沖縄県に次ぐ米軍基地県であるとした。そして、横須賀基地には米軍空母がアメリカ以外に唯一存在しているが、この空母が行っている、着艦訓練やタッチアンドゴー、レーダーに見つからないための低空飛行などの訓練は、日本防衛のためではなく外国を攻撃する訓練だと強調した。横須賀に配備されている原子力空母についても、2基の原子炉を積んでいるとされており、日本国内の原発よりもはるかに濃縮された燃料を積んでいるなど、原発よりもはるかに危険なものだと言及した。

また、厚木基地にも飛来するようになった新型輸送機オスプレイについて、水平飛行モードと垂直離発着モードの変換時に危険が増していることを模型を示しながら説明した。8月12日には沖縄県で米軍特殊作戦ヘリが墜落したことに触れ、自衛隊員が米軍の特殊作戦と一体に参加していると説明した。学習会の最後には米軍横須賀・厚木基地平和視察会アピールを採択した。

横須賀軍港めぐりでは観光船の中から基地を視察した。当日は原子力空母ジョージ・ワシントン是不在だったが、ソマリア沖海賊対処に出ていた海上自衛隊の護衛艦むらさめといかつちが半年ぶりに帰港していた。軍港めぐりを主催する会社のガイドは、



オスプレイの模型を手に解説する蒲谷氏

護衛艦の艦体の損傷からもソマリアでの任務の過酷さが伝わってくると紹介した。

厚木基地視察では、基地の南端から視察。解説中に滑走路へと進入する機体が、頭上を通過し爆音が轟いた。厚木基地で蒲谷氏は、東京高裁が7月30日に一審に続いて、自衛隊機の深夜早朝の飛行差し止めを命じる判決を出した上、騒音被害に対する将来にわたる損害賠償についても国に命じる判決を出した一方、米軍機については国が差し止める根拠がないとして認めなかったことを紹介した。

バス移動の中でも、蒲谷氏から、神奈川県内での軍需産業について、大手企業が軍需産業に関わっていること、安保法成立を狙う財界と政府与党のつながりがあることに触れた。

基地視察会は厚木基地視察を予定より早めに切り上げ、国会前へ移動して安保法案反対集会に参加した。

第 17 回反核医師近畿懇談会を開催

# NPT再検討会議の成果と核兵器廃絶の展望学ぶ

関西大学法学部教授の富田宏治氏が解説



26人が出席した懇談会（右）で講師の富田宏治氏（上）がNPT再検討会議の成果について解説



第 17 回反核医師近畿懇談会が 9 月 6 日、兵庫県保険医協会会議室で開催され 26 人が参加。関西大学法学部教授の富田宏治氏が「NPT再検討会議の成果と核兵器廃絶への課題」と題し講演した。兵庫県からは加藤擁一、宮武博明両運営委員が出席した。

富田氏は原水爆禁止世界大会起草委員長として、今年 5 月にニューヨークで開催された NPT（核不拡散条約）再検討会議の歴史的到達点について解説。NPT 再検討のプロセスとして、第 1 段階「NPT の不平等性の告発」（95 年の無期限延長から 2000 年の「明確な約束」へ）、第 2 段階「核兵器のない世界の平和と安全保障」（オバマ大統領の「プラハ演説」など、支配層の間に広がる「核拡散」と「核テロ」への恐怖）、第 3 段階「核兵器の非人道性の告発から核兵器の非合法化へ」（「核兵器の人道的结果に関する共同声明」の拡大など）を経て、現在は第 4 段階「核軍縮の領域における民主主義と『法の支配』の確立へ」へと、時代が進むにつれて進んできていると紹介した。第 1 段階の「抑止力」という圧倒的な軍事力に頼る政策を克服し、「非人道性」（被爆の実相）、民主主義（署名）、「法の支配」（核兵器禁止条約）というキーワードで、軍事力＝「力」から、諸国民の世論と「法」へ国際的な市民社会の転換が促されていると強調した。

また、2015 年再検討会議の最終文書は、「中東非核地帯化のための国際会議」の招集について米・英・加が反対したため、合意には至らなかった

が、それ以外の部分は合意が成立しており、国連総会に「核兵器のない世界」の達成のための「法的規制を含む有効な措置」を選別し、仕上げるためのオープンエンドの作業グループの設置が勧告され、この合意の実現を当面の重要な足がかりとして、9 月からの国連総会でこの実現を迫る必要があるとした。

そして、民主主義と「法の支配」に向かう世界の流れから逆行する日本の安倍政権についても言及し、民主主義と「法の支配」を世界に確立し核兵器禁止条約を求める闘いとともに、日本における「立憲主義」を守り国民主権の回復求める「戦争法廃案」「安倍政権打倒」の闘いを一環としてとらえることを強調した。

各会の交流では、大阪歯科保険医協会理事の中村新太郎先生が NPT 再検討会議ニューヨーク行動と署名活動の経験について映像を交えて報告。司会を和歌山県反核医師の会運営委員の松井和夫先生、開会あいさつを保団連副会長・京都府保険医協会理事の飯田哲夫先生、閉会あいさつを兵庫県反核医師の会運営委員の加藤擁一先生が務めた。

非核の政府を求める兵庫の会 市民学習会

# 原爆孤児

## 「しあわせのうた」が聞える

日時 11月7日(土) 14:30~16:30

会場 兵庫県保険医協会 5階会議室

講師 平井美津子さん (中学校教諭、子どもと教科書大阪ネット21 事務局長)

参加費 1000円

主催 非核の政府を求める兵庫の会

問合先・事務局 電話 078-393-1833

[shin-ok@doc-net.or.jp](mailto:shin-ok@doc-net.or.jp)

協賛 市民社会フォーラム

『原爆孤児 「しあわせのうた」が聞える』を著した平井美津子さんに、著書に込めた反核平和の思い、教育者として戦争の歴史を伝えることの大切さについてお話いただき、被爆・敗戦70年の現在、わたしたちが未来に向けて振り返るべき過去について交流いたします。

平井美津子 (ひらい みつこ) さん

大阪・吹田市立第一中学校教諭。歴史教育者協議会。子どもと教科書大阪ネット21 事務局長。編著書に、シリーズ戦争孤児③『沖繩の戦場孤児』(2015年、汐文社)、平和を考える戦争遺物④『沖繩戦と米軍占領』2014年、汐文社)、シリーズ戦争遺跡②『戦場となった島』(2010年、汐文社) など。

原爆孤児 「しあわせのうた」が聞える

平井美津子

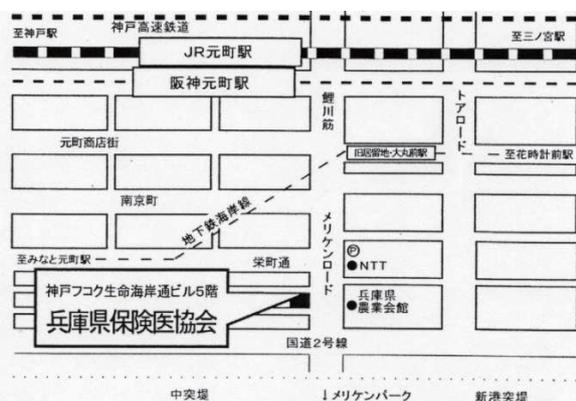


新日本出版社

『原爆孤児 「しあわせのうた」が聞える』  
(2015年、新日本出版社)

両親の突然の理不尽な死、何が起きたかもわからぬまま傷を負った心。そんな原爆孤児たちを支援した「精神養子運動」と、それを担った作家の山口勇子らの思いを丹念な取材で記録。「父さん、母さんはなぜ死ななくてはならなかったの？」との問いかけに光を当てた、被爆70周年にこそ読みたい感動のノンフィクション。

保険医協会会議室(神戸フコク生命海岸通ビル5階)



JR・阪神「元町」駅下車東口から南へ徒歩7分

第26回

# 反核医師の つどい

in 愛知

被爆・戦後70年  
医療者は戦争も核も  
許さない



日時 2015年

10月31日土・11月1日日

会場 AP名古屋・名駅

名古屋市中村区名駅4丁目10-25 名駅IMAIビル8階 TEL052-561-1109

参加費 医師・歯科医師:5,000円 医療関係者:2,000円 医・歯学生:1,000円  
※一日参加でも参加費は変わりません。

## 1日目 10月31日 14時より

●全体会 14:00~14:30

●記念講演 14:30~16:30

核なき世界は実現できる  
～被爆70年と日本国憲法  
秋葉忠利氏  
(ヒロシマ・ピース・オフィス代表、前広島市長)



●特別講演 16:45~18:00

太平洋核実験  
—知られざる被ばくの実態—  
伊東英朗氏  
(南海放送ディレクター)



●懇親会 18:30~20:30

ホテルサンルートプラザ名古屋  
(名古屋市中村区名駅2-35-24 TEL052-571-2221)

## 2日目 11月1日 9時30分~13時

●第一分科会 核廃絶への展望

- ・2015年NPT再検討会議の結果と核兵器廃絶の展望  
富田宏治氏 (関西学院大学法学部教授、原水爆禁止世界大会起草委員長)
- ・核兵器の人的影響に関する国際会議報告  
眞鍋 穰氏 (阪南医療生協診療所所長、全日本民医連被ばく問題委員)

●第二分科会 日本における放射線被害

—過去・現在・未来—

- ・福島県における放射線障害の実際  
松本 純氏 (生協いの診療所)
- ・「放射線リスクに関する基礎的情報」批判 —出版の目的と3つの視点  
間間 元氏 (生協きたはま診療所所長、反核医師の会 原発プロジェクト委員)

●第三分科会 憲法9条から考える～集団的自衛権

川口 創氏 (弁護士、イラク派兵差止訴訟弁護団事務局長、  
国民安保法制懇事務局長)

主催：核戦争に反対する医師の会  
「第26回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい」実行委員会

〒466-8655 名古屋市中村区妙見町19-2 愛知県保険医会館内  
TEL 052-832-1346 FAX 052-834-3512

メールアドレス no-nukes@aichi-hkn.jp  
http://26th-no-nukes-meeting.jimdo.com/



問合せ・参加申込は兵庫県保険医協会担当事務局 栗山 (TEL 078-393-1807) まで